

さけ・ます資源管理連絡会議の概要

いしくろ たけひこ
石黒 武彦（企画課連絡調整係長）

当センターでは、成果の発表、業務に対するニーズの把握などを目的に、昨年8月27日、ホテルライフォート札幌において、さけ・ます資源管理連絡会議（以下「連絡会議」）を開催しました。連絡会議には、さけ・ますふ化放流事業に関係する国や道県の行政機関、試験研究機関及び民間増殖団体などから103名の方々に出席を頂きました。

主催者を代表して大西理事長が挨拶し、来賓を代表して水産庁栽培養殖課野川課長補佐から挨拶を受けました。「北海道におけるサケ来遊資源と今後の増殖の在り方」と題して廣井調査研究課長が講演した後、岩浅理事を座長に以下の話題を当センター及び関係機関の担当者から提供し、質疑応答を行いました。

1. 北太平洋におけるサケ資源及び海洋環境状況について（北海道区水産研究所；福若研究員，東屋主任研究員）
2. 平成13年度の本州サケ資源の来遊状況及び本邦系サケ資源評価精度向上のためのアプローチ（当センター；長谷川室長，安達係長）
3. 日本系サケの資源変動と沿岸海洋環境について（当センター；斎藤研究員）
4. さけ・ますふ化放流の実施状況と近年の沿岸環境について（当センター；伊藤係長，平澤係員，平林係員）
5. 水温制御による成長コントロールについて（当センター；藤瀬係長）
6. さけ・ます幼稚魚の健苗基準について（当センター；大熊主任研究員）
7. 石川県におけるサケふ化放流事業について（石川県水産総合センター生産部美川事業所；浅井所長）
8. 平成13年度アンケート調査結果と改善状況について（当センター；石黒係長）

連絡会議の内容についてはすでにセンターホームページで公開しております。また、議題3については本紙9号にも掲載しておりますので、詳し



「日本系サケの資源変動と沿岸海洋環境について」の発表

くはそちらをご覧ください。

連絡会議は今回で2回目となりますが、今後の連絡会議の改善方向を探ることと、前回のアンケート調査を受けた改善状況を点検することを目的にアンケート調査を行いました。

調査結果では、会議の内容、配布資料とも全体として好印象として受け入れられ、前回と比較しても改善が認められました。

一方、関係者からは、(1)ふ化放流の現場に密接に結びつく技術開発情報の提供、(2)国際的あるいは全国的な立場からの来遊資源情報の提供、(3)会議の内容及び配布資料をより分かりやすさの追求、(4)意見交換、情報交換の場の充実、などを求められました。

連絡会議の事務局としましては、国、道県機関から民間団体と幅広い階層が一堂に集まる連絡会議において、各階層が求めている情報を分かりやすく提供するとともに、関係機関との意見交換、情報交換を行いたいと考えていますので、皆様のご協力と多くの方々の出席をお願いいたします。